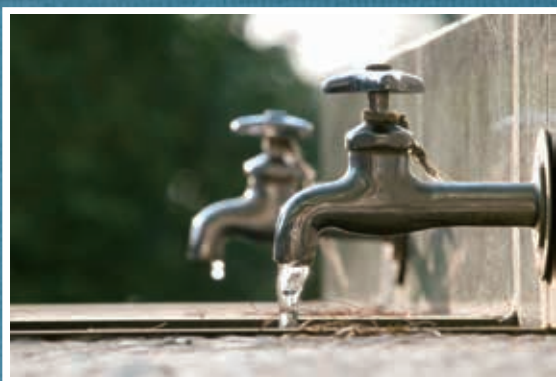




写真提供：飯塚明夫、今村健志朗／JICA

世界の^{みず}水問題^{もんだい}



も

<

じ

タイトル

ページ

1.  限りある地球の水 1
2.  開発途上国の水事情 3
3.  水と健康－きれいな水がないとどうなるの? . . . 5
4.  世界の水を守るために－日本の取り組み . . . 7
5.  世界の水を守るために－私たちができること . . 9

はじめに

私たち JICA（ジャイカ）は、全世界150カ国以上の国や地域で、世界中の人々が幸せに暮らすことができるように、様々な活動を行っています。

日本は水の豊かな国です。私たち日本人は一人当たり一日にどのくらいの量の水を使っているか、皆さんは知っていますか？ 2020年を例にとると262L（※参考として出典：令和5年版 日本の水資源の現況について）にもなるそうです。私たちはペットボトル131本分もの水を毎日使って生活しているんですね。

でも、世界の中には水を十分に使えない地域に住む人々がいます。なかには、一日に25Lしか水を使えない人々もいます。ペットボトルにするとたったの12.5本にしかありません。また、世界には、日本のようにきれいな水を使うことができず、病気になってしまう子どもたちもたくさんいます。人間を含め、生物は水なしでは生きていけません。でも、その水の問題で苦しんでいる人々が世界にはたくさんいるのです。

このような水を取り巻く世界各地の現状を、皆さんに理解してもらいたいと思い、この小冊子を作りました。そして、この小冊子を通して、皆さんが、この地球のために、「自分にできることは何か」、考えてもらえるきっかけを持ってもらうことができれば、大変うれしく思います。

JICA地球ひろば所長

限りある地球の水

私たちが毎日使う水。地球上には豊富に水があるように思えますが、実は人間が使うことができる水はほんのわずか。水は貴重な、地球の宝物なのです。

ちょこっとコラム

世界の水事情

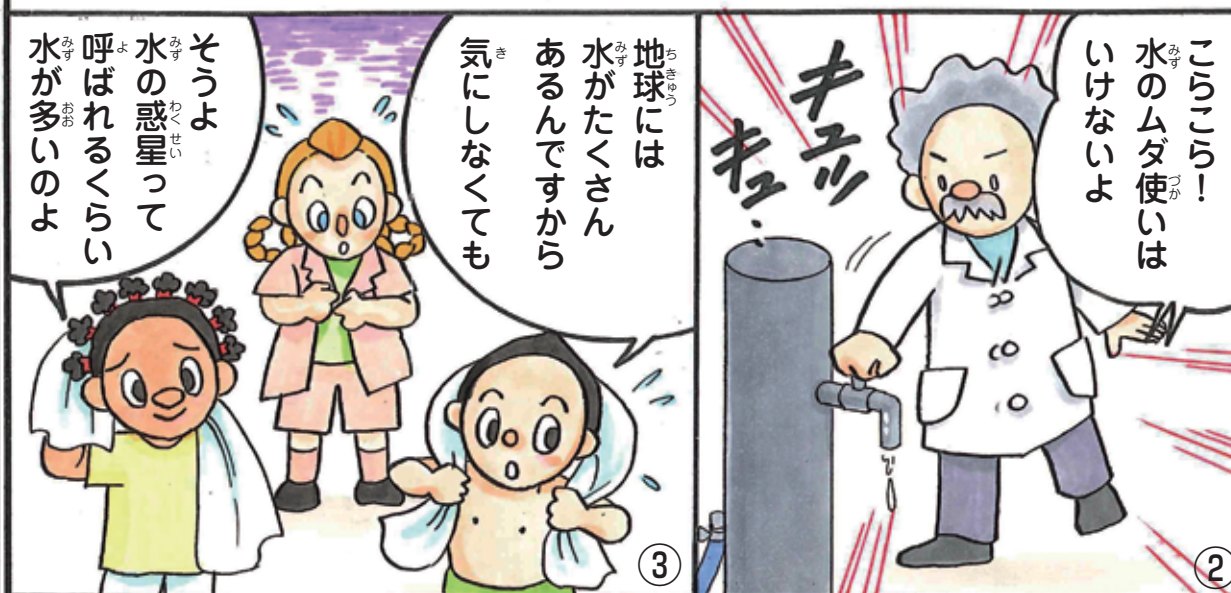
世界では22億人が清潔な水を飲めず、42億人が適切な衛生設備へアクセスできない状態で暮らしています。日本では一人当たり一日どのくらいの水を使っているのでしょうか？ 2020年を例にとると、平均262Lです。

このような状況の中、2015年9月の国連総会で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、そのうち水問題に対して「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」という全世界共通の目標が設定されました。水が豊かな国も、そうでない国も、同じ地球に生きる人として、地球の大切な水の問題を解決するため、一丸となって取り組みを行っています。

①「2020年国連世界水開発報告書(World Water Development Report 2020 "Water and Climate Change")」



①



②

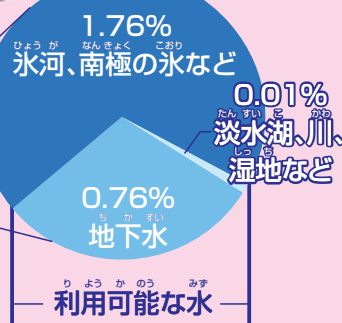


④

地球上の水の97.47%は海水などの塩水で、これは飲むことにも作物を育てることに使えないじゃ。

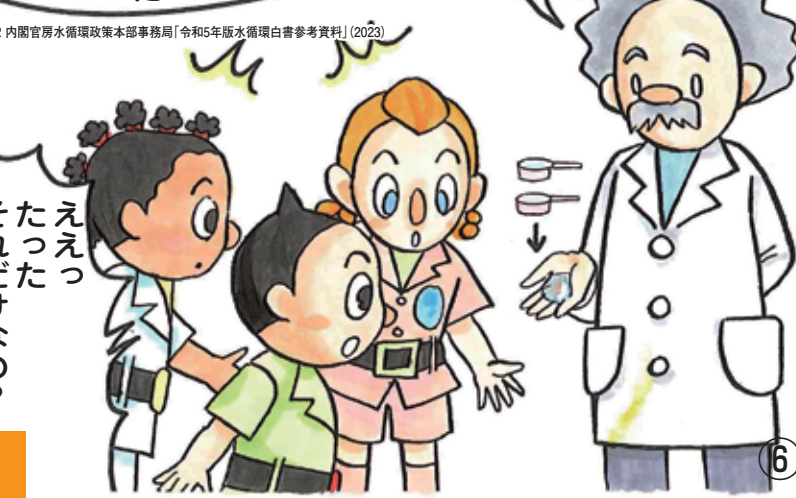


ほとんど使えないのよ



⑤

われわれがよく目にする川や湖などの淡水の量は、地球全体から見るとわずか0.008%ほどなのじゃ。



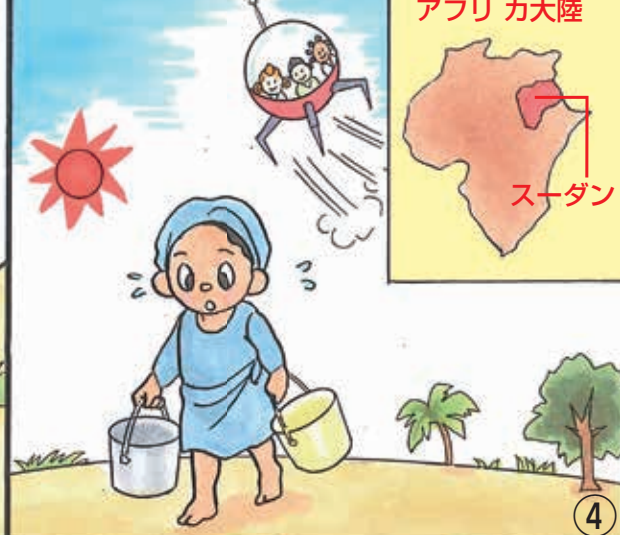
⑥

※1 内閣官房水循環政策本部事務局「令和5年版水循環白書参考資料」

※2 内閣官房水循環政策本部事務局「令和5年版水循環白書参考資料」(2023)



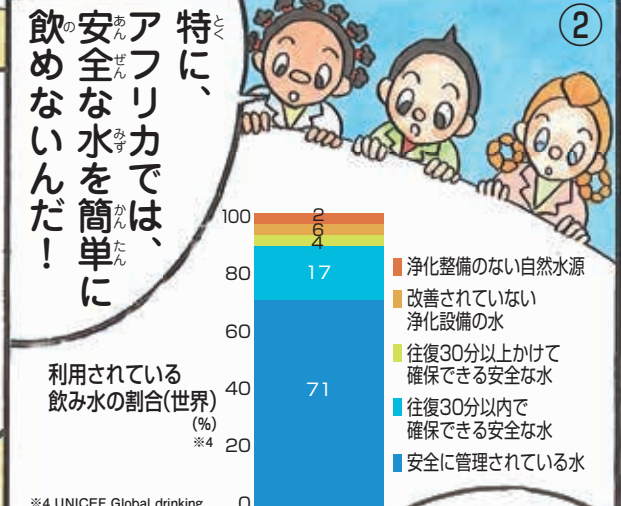
水くみは一家の大事な仕事なの
今日は手伝って
もうらったから
1回ですんだけど
2、3回行かなければ
ならないときも
あるのよ



こんなに何を
しているの?
水を汲みに
行くところ
なの
じゃあ
お手伝い
しましょう



世界の人々が
平等に水を使え
るわけじゃない
んじゃ
1人が
1年間で
使える水の
量も世界の
国々では
ことなっ
て
いるのじゃ
よ



世界では10人の
うち3人が、
安全な飲み水を
利用できないと
言われているんじゃ
※5



開発途上国の水事情

日本では、蛇口をひねればすぐに水を使うことができます。しかし、世界中の人々が平等に水を使えるわけではなく、なかには、深刻な水不足に悩む人もいます。世界では、安全に管理された飲み水を使うことができない人が22億人もいます。※3

※3 「2020年国連世界水開発報告書 (World Water Development Report 2020 'Water and Climate Change')」

ちよこつとコラム

開発途上国における安全な水へのアクセス

開発途上国の中で、水道が整備されていない地域に住む人々は、毎日の水を得るために水汲みを行う必要があります。安全な水のアクセスが良くない地域では数kmもの距離を往復することも珍しくなく、時間のかかる重労働です。そして、多くの場合、女性や子どもの仕事であるため、開発途上国では子どもの就学や女性の就業の妨げになっています。

安全な水へのアクセスが改善されれば、それまでに水汲み労働によって費やされていた時間と労力が軽減されます。そして、子どもが就学できるようになったり、女性が様々な職業に就くチャンスも生まれます。水へのアクセスは、開発途上国地域の人々が貧困状況から脱出するための、大切な要素なのです。

②このアクセスとは、「自宅から往復30分以内で水を汲んでくることができること」を指す。
(WHO and UNICEF Progress on Drinking Water, Sanitation and Hygiene: 2017 Update and Sustainable Development Goal Baselines)

水と健康

—きれいな水がないと どうなるの？

井戸や水道が整っていない多くの開発途上国では、きれいな飲み水を得ることが難しい場合があります。そのため、汚れた水を飲み、それが病気の原因となることも多いのです。世界では毎年44万人もの5歳未満の子どもたちが下痢によって命を落としています。

※6 WHO ホームページ

ちょこっとコラム

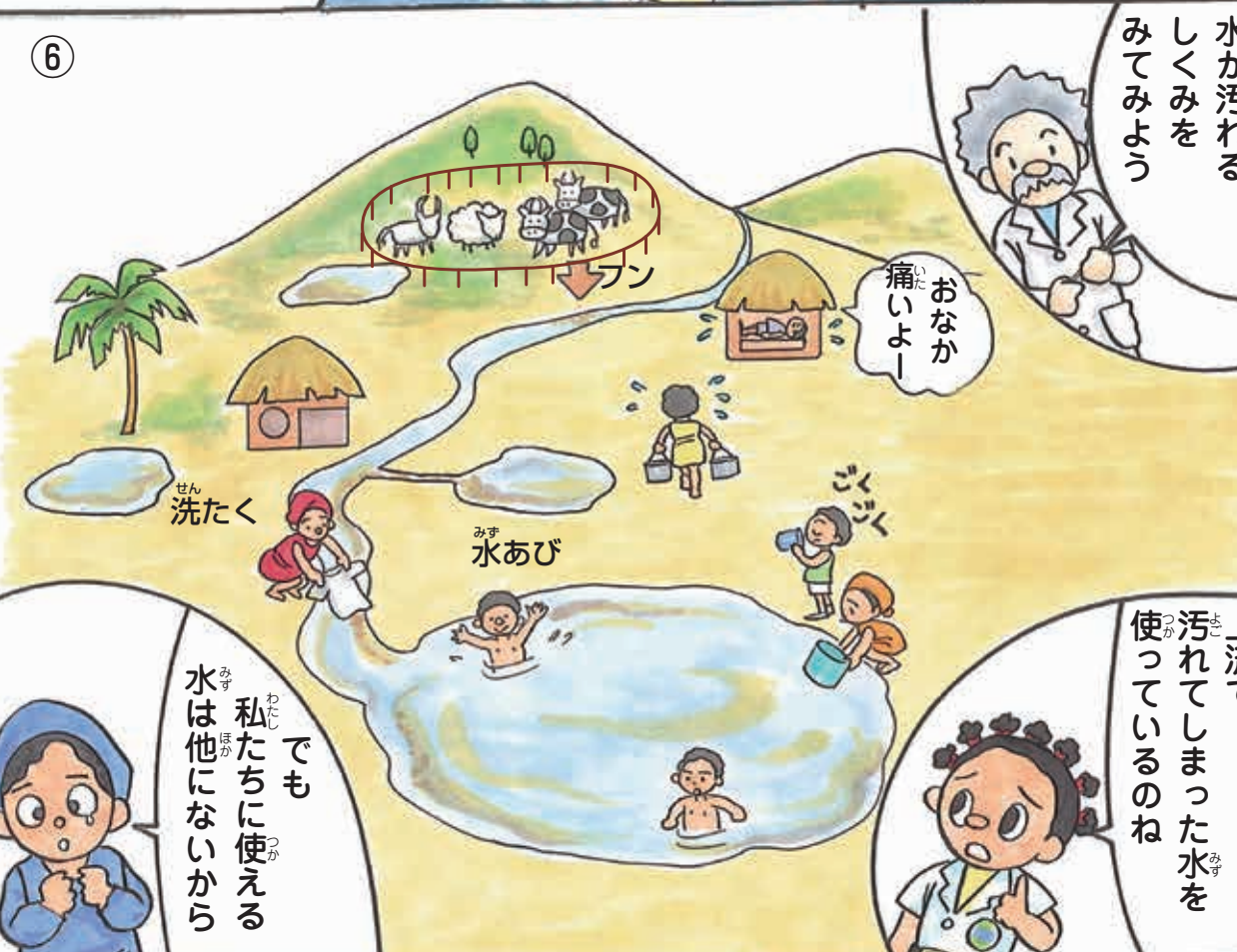
水と健康—開発途上国の水事情

世界では、7億300万人が、自宅から往復30分以内の場所に、改善された水源をもちません。単純に計算すると、世界の11人にひとりが安全な水を十分、かつ容易には使えない事になります。この状況は、特に開発途上国で顕著です。不衛生な水の利用はそこに住む人々の健康問題に直結します。汚水は、コレラや腸チフス、赤痢などの感染症の主要な感染原因となっています。これらの感染症は、抵抗力の弱い子どもがかかると特に重篤化する傾向があり、世界では20秒に1人の割合で、水関連の病気で子どもが亡くなっていると言われています。

※6 Progress on household drinking water, sanitation and hygiene (WASH)

2000-2022: Special focus on gender gender)

※6 WHO and UNICEF Progress on Drinking Water, Sanitation and Hygiene: 2017 Update and Sustainable Development Baselines



世界の水を守るために —日本の取り組み—

海や川の水は蒸発して雲になり、雲は雨や雪となって地上に降り、最後は海や川に戻ります。これを水の「循環」といいます。世界中には安全な水が手に入らない地域がたくさんありますが、日本はそのような地域に対し、井戸や水道の整備などをはじめ、水の循環を守るためのさまざまな協力を行っています。

ちよこつとコラム

水分野の日本の国際協力

日本は、従来水分野への協力を重視しており、2005～2009年度の5年間の中では、「飲料水と衛生」分野において、世界全体の援助総額のうち、3分の1以上に相当する毎年約19億5380万ドル（平均）を担うなど、世界最大規模の支援を行ってきました。上下水道施設建設、井戸掘削等のハード面と、水分野の人材を育成するソフト面の、両面からの協力を特徴としています。

政府開発援助（ODA）の実施機関である独立行政法人国際協力機構（JICA）は、水問題解決の経験を生かし取り組んできた結果、2007年から2017年までは、日本が水・衛生分野で最も貢献しました。資金協力と技術協力を一体的に活用して貢献が可能なからです。また、持続可能性を高めるために栄養、保健、教育等のセクターと連携して取り組んでいます。

2030年までに世界10以上の地域で水問題の解決に向けて事業を行い、10万人以上の人材育成、3,000万人以上の給水人口の増加を目指しています。

● 外務省 HP (2011)
● JICA HP

世界の水をみんなが安全な水を十分に使えるようにするために私たちが何かができるかしら

世界中の水は川や海雲などでつながっているから自分たちの地域のことばかりを考えるといけないんだよ

わあ水がぐるぐるまわってる

水がわれわれの生活にどんなふうにかかわっているか見てみよう



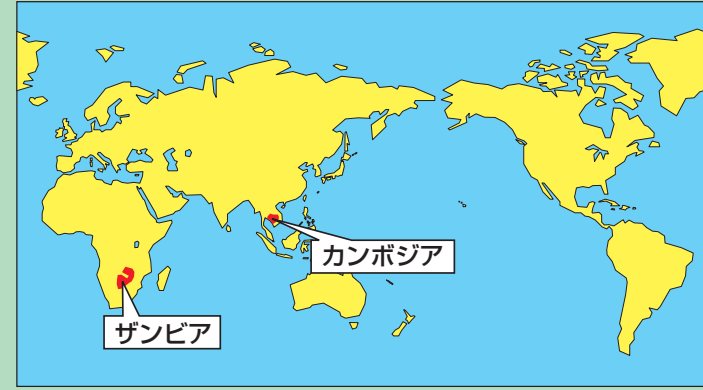
水環境を良くするためこの「循環」全体をよくしていかなきゃいけないんだよ

だから私たちは安全な水を使うことができるんだね

安全な水が利用できなかったり十分な水が手に入らない開発途上国の人々に向けて日本はさまざまな協力をおこなっているんだよ



写真提供：今村健志朗/JICA



ザンビア 地方給水維持管理強化プロジェクト 日本は、ザンビアにおいて、これまでに1000基以上の井戸の建設を支援し、その井戸を村人の手で、長く、きれいに使ってもらったための活動に協力しています。

写真提供：飯塚明夫/JICA

世界の水を守るために —私たちができること

日本は食料の62%（カロリーベース）を輸入に頼っていますが、これらの食料を生産するためには、大量の水が必要です。私たちの目に見えないところで、日本は外国の水を使っているのです。世界の水を守るためには、水の少ない国や地域に協力するだけでなく、私たちが身の回りでできることを行っていくことが大切です。

※7 農林水産省令和4年度食料自給率・食料自給力指標

ちょこっとコラム

世界の水問題を解決するために —私たちが身近にできること

世界の水資源を守るために、先進国に住む私達一人ひとりができることを考えることが大切です。なぜなら、先進国に住む私達のライフスタイルが、世界の水問題に大きな影響を与えているからです。例えば、日本は食料の62%（カロリーベース）を輸入に頼っていますが、この輸入食料を生産するために水が必要です。日本は間接的に世界各国の水を消費していると考えられます。これを『仮想水（ヴァーチャル・ウォーター）』と言います。日本が1年間に消費する量の同じ程度に当たる量の水が、海外で輸入作物の生産に使われているというデータもあります。

また、森林は雨を貯めておく貯水池としての役割も果たしていますが、近年の森林伐採の影響で、降った雨が地下にしみ込むこと無く、一気に川に流れ込むため、世界各地で洪水が多発するようになってきていると言われています。さらに、地球温暖化による気候変動の影響で、降雨パターンが変化し、早魃や洪水の被害は増加しています。

世界の水資源を守るために、私達が日々の生活の中でできることとして、身近で生産された食料を消費する「地産地消」の取り組み、紙・木などの資源をできるだけ使用しないリサイクル活動、温室効果ガスの削減のための省エネ活動などが挙げられるでしょう。

※8 農林水産省「令和4年度食料自給率・食料自給力指標」（2022）

※9 環境省HP virtual water (2025)

世界の水を守るために

①

私たちがみんなが協力しないといけないんじゃないかな

この日本でも世界中の水をたくさん使っているのを知っているかね

いったいどういこと!?

日本は海外から62%（カロリーベース）もの食料を輸入しているんじゃないかな



海外で肉や作物を育てるためにも大量の水が必要なんじゃないかな

あつそうか!

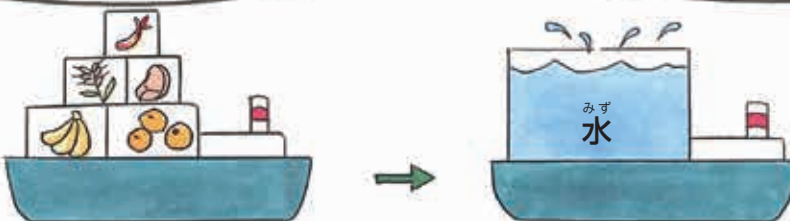
②

食べものを大量に輸入すると

いうことは世界の水を大量に使っていることになるのね

そうじゃ日本に輸入する食料を育てるのに海外の国々は日本が1年間で

使う水の同じ程度にあたる量の水を使っているんじゃないかな



※9 環境省HP virtual water (2025)

③

日本の人たちの生活も

世界の国々で水で成り立っているんだね

④

開発途上国の水不足は先進国の人々の生活と決して無関係ではない

地球環境を守ることは水が生まれる環境を守ることで、温暖化の原因となる二酸化炭素の量をできるだけ少なくする

水を作る森を守るため紙や木でできたものを必要以上に使わないようにする

世界の人々が安全安心な水を使えるようになるために

⑥

地元の食べ物を食べれば

たくさんさんの食料を輸入しなくてもいいので世界の水の消費が少なくてすむ

世界の水を守るためにみんなどんな協力ができるか一緒に考えてみよう



地元でとれた食材を食べる



電気はこまめに消す



なるべく車を使わない

⑤

森の木は水をためたりきれいにしてくれたりします



これからもみんなできていることを考えていこうね!

学校で活用できる JICA国際理解教育/開発教育支援 プログラム

地球ひろば訪問

JICA地球ひろばの目玉展示「地球ナビ」では、SDGsの各ゴールについて学べる。



▲▲▲
地球ひろばの
最新情報

「市民参加による国際協力の拠点」としてオープンしたJICA

地球ひろば。東京をはじめ全国8か所で、映像やクイズによる展示に加え、民族衣装の試着や世界の料理を味わえるレストランなど、“見て・聞いて・さわって”、途上国の暮らしや地球が抱える課題、国際協力の現状を学べる場所となっている。JICA横浜に併設する海外移住資料館では、日本人の海外移住の歴史と日系人の現在を学ぶことができる。

国際協力出前講座



▲▲▲
国際協力出前講座の
最新情報

海外協力隊の経験者や職員、国際協力専門員など国際協力に携わったJICA関係者や途上国からの研修員が講師となり、自らの体験をベースに国際理解につながる内容を伝える。講師が直接訪問する「対面型」と、途上国で活動中の隊員などと交流する「オンライン型」の2種類から選択可能。体験談、異文化理解、国際協力キャリア、SDGsなど希望のテーマに沿って講師と講座内容を組み立てる。



講師がアフリカ地域の民族衣装を着て、現地の生活・文化を子どもたちに紹介。

16 JICA 沖縄 (おきなわ地球ひろば) ★



教員向け研修

1965年から続く教師海外研修。約10日間の海外研修と渡航前後の国内研修で構成。



▲▲▲
教員向け研修の
最新情報

開発教育に興味・関心のある教員を対象に、途上国を訪問す

る「教師海外研修」、それぞれの国内拠点でテーマ別に行われる「国内研修」、指導案の作成・授業実践のレベルアップに取り組む「指導者研修」など、対象者や目的が異なるさまざまな研修を実施している。参加者同士の意見交換や協働作業を通してネットワークを築くことで、研修後も各地域の学校教育関係者と連携してさらなる開発教育の推進を図る。

14 JICA 中国 (ひろしま地球ひろば) ★



13 JICA 四国



12 JICA 関西 (かんさい地球ひろば) ★

15 JICA 九州 (きゅうしゅう地球ひろば) ★



1 JICA 北海道 (札幌/ほっかいどう地球ひろば) ★



2 JICA 北海道 (帯広/おびるっく) ★



JICAの国内拠点 (★:体験型施設)



もっと知りたい
JICA国内拠点

国内拠点の最新情報を
JICAのサイトでチェック

開発教育支援教材



▲▲▲
開発教育支援教材の
最新情報

冊子教材はダウンロードだけでなく、無料での貸し出しや提供にも対応。



子どもたちが世界の現状や課題について理解を深めるための教材を作成し、無料で提供している。主体的・対話的で深い学びにつながるよう、授業でそのまま活用できるワークや、映像、マンガで学ぶもの、さらにはゲームを取り入れたものまで各種揃える。多文化共生の教材や、教員向けに授業のヒントとなるようなガイド冊子や指導案事例も。すべて地球ひろばのホームページからダウンロードが可能となっている。

国際協力エッセイコンテスト



▲▲▲
エッセイコンテストの
最新情報

2023年の表彰式で審査員との座談会や受賞者同士のワークショップも行った。



途上国の現状や日本との関係について理解を深め、グローバル社会の中で自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えてもらうことを目的として、中学生と高校生を対象に毎年開催。上位入賞者には約1週間の海外研修やフェアトレード商品を贈呈。海外研修では訪問国の文化体験や同年代の生徒との交流、現場が抱える課題とそれらに対するJICAの取り組みを視察することで、国際理解をさらに深める。



JICA地球ひろば
(独立行政法人国際協力機構)

〒162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5 TEL : 03-3269-2911 URL : <https://www.jica.go.jp/hiroba/>

第一版 : 2010年3月
第二版 : 2025年8月



2025.8